

1.子ども食堂が目指す居場所づくりとは せと・まんぷく子ども食堂の歴史と経験から学ぶ

青山洋唯

1. はじめに

私が子ども食堂という場所があることを知ったのは、成ゼミに所属してからである。成ゼミに所属し、子ども食堂がどのような活動をしているのか、何故、子ども食堂が必要なのかをもっと知りたいと思い、実際に子ども食堂にボランティアとして参加したいと感じた。自分は瀬戸市菱野台にある、さるなか toto で行われている「せと・まんぷく子ども食堂」に1年間ボランティアとして参加させていただいた。せと・まんぷく子ども食堂での活動を通して発見したこと、感じたことをレポートする。

2. 子ども食堂の歩み

(1) せと・まんぷく子ども食堂を始めたきっかけ

せと・まんぷく子ども食堂代表者の眞野さんにお話を聞いたところ、「周囲は小学校が多い地域である。中には両親が共働きのため、夜一人でご飯を食べなくてはならない子どもも多い。また、夕方や夜遅くまで一人であることで、犯罪や事件に巻き込まれる可能性もあり、これらの問題を少しでも改善できたらという思いで、子ども食堂を開催した。」とおっしゃっていた。

(2) これまでの参加報告

○第1回

参加日時：5月20日 15:00~19:00

メニュー：カレーライス もやしと小松菜のサラダ たけのこのきんぴら ミルクかん

活動内容：

準備時間には、当日のメニュー看板の作成をします。開店前には何人かお客さんが並び始めるので子どもとの交流をしている。新学期になってから最初の開店というのもあり、開店前から長蛇の列ができるほど並んでいた。外で遊ぶ子どもと一緒に遊び、何故、子ども食堂に来たかをお客さんに聞いて回った。お店の中に入っても席が空くまで待っている子どもたちもいたため、退屈しないように一緒に遊んだ。

○第2回

参加日時：6月17日(土) 15:00~19:00

メニュー：豚丼 ポテトサラダ お吸い物 オレンジゼリー

活動内容：

準備時間には、当日のメニュー看板の作成をする。開店前には何人かお客さんが並び始め

るので子どもとの交流をしているが、今回は開店前にはほとんど並んでいなかったため、子どもとの交流はできなかった。開店すると、料理提供やお客さんに料理の感想を聞いて回っている。料理はワンプレート式である。今回の子ども食堂からお客さんに、ボランティアの方々や、食材のご寄附をしてくださる方々にメッセージを送る活動を試み始めていた。書いていただくため、お声かけをして回った。

○第3回

参加日時：7月15日(土) 15:00~19:00

メニュー：カレーライス サラダ フルーツのヨーグルト和え

活動内容：

準備時間には、当日のメニュー看板の作成をする。開店前には何人かお客さんが並び始めるので子どもとの交流をしているが、今回は開店前には並んでいなかったため、子どもとの交流はできなかった。開店すると、料理提供やお客さんに料理の感想を聞いて回っている。料理はワンプレート式である。6月の子ども食堂からお客さんに、ボランティアの方々や、食材のご寄附をしてくださる方々にメッセージを送るためにポストイットに感想を書いてもらうよう声かけをしている。

○第4回

参加日時：9月16日(土) 15:00~19:00

メニュー：親子丼 コールスローサラダ みかんゼリー

活動内容：

いつも通り会場設営とメニュー看板を作成した。4回目になると作業にも慣れてきて素早く準備を終えることができた。そこで、真野さん、水野さん、山下さんと余った準備時間で何かできることはないかと議論した。料理は主婦のボランティアの方々だけで準備できることから、食事スペースでやれることを模索した。そこで、次回から食事スペースでお楽しみ会(仮称)を開催することが決定した。17時から開店だが、16時から開放し子どもと触れ合う時間を設けることを目的とした。開店前にお店の前で待っている子どもがいるため料理ができるまで退屈させない目的もある。お楽しみ会の内容は検討中だが、第1回はトランプや折り紙を使って遊ぶことにしている。お楽しみ会の内容も毎回議論していく予定だが、コストとクオリティどちらも充実した内容にしていきたい。お楽しみ会を行うことを来てくれた子どもたちに告知すると、楽しみだと言い16時から来てくれると約束してくれる子ども何人かいた。

○第5回

参加日時：10月21日(土) 15:00~19:00

メニュー：ごもくめし えびとブロッコリーのサラダ ヨーグルトゼリー お吸い物

活動内容：

いつも通りメニュー看板の作成をした。今回から開店前1時間を使ったお楽しみ会が始まった。第1回はトランプや折り紙を使って遊んだ。他にも複数人で遊べるゲームで子どもと一緒に楽しんだ。子どもらも楽しんでいる様子で大成功だったと感じる。せと・まんぷ

くこども食堂の課題である、本当の意味での居場所作りに近づいたのではないかと考える。

○第6回

参加日時：11月18日(土) 10:00~14:00

メニュー：カレー キャベツのサラダ フルーツのゼリーのせ

活動内容：

今回からランチの時間帯に変更なった。昼のほうが子どもだけで来るお客さんが多いと思っていたところ、やはり子どもだけで来るお客さんが多かった。来客数も40人と多かった。第2回目となる「子どもと遊ぼう！」も大盛況でした。

○第7回

参加日時：12月18日(土) 10:00~14:00

メニュー：ツナコーンピラフ かぼちゃのスープ 長芋のソテー りんごとさつまいもの甘煮 とりハム

活動内容：

いつもと同じように準備を進め、開店1時間前から子どもと遊んでいました。この活動を始めた時は、複数のグループで遊んでいて、知り合いの子ども同士で遊んでいたが、今回からなるべくグループをまとめて、子ども同士のネットワークを広げようと試みた。最初は緊張していた子もいたが、徐々に笑顔が増えとても良い雰囲気で遊ぶことができた。また、グループ数を減らしたことで使う机の数も減り、食事準備の妨げにもならず効率的に行えた。

今回、愛知学院大学の学生がボランティアに来ていたり、見学に来た方もいた。子ども食堂に注目が集まり、関心を持つ人が増えている証拠だと考える。せと・まんぷく子ども食堂が地域以外にも根づき始めていることがわかる。

(3) 参加人数

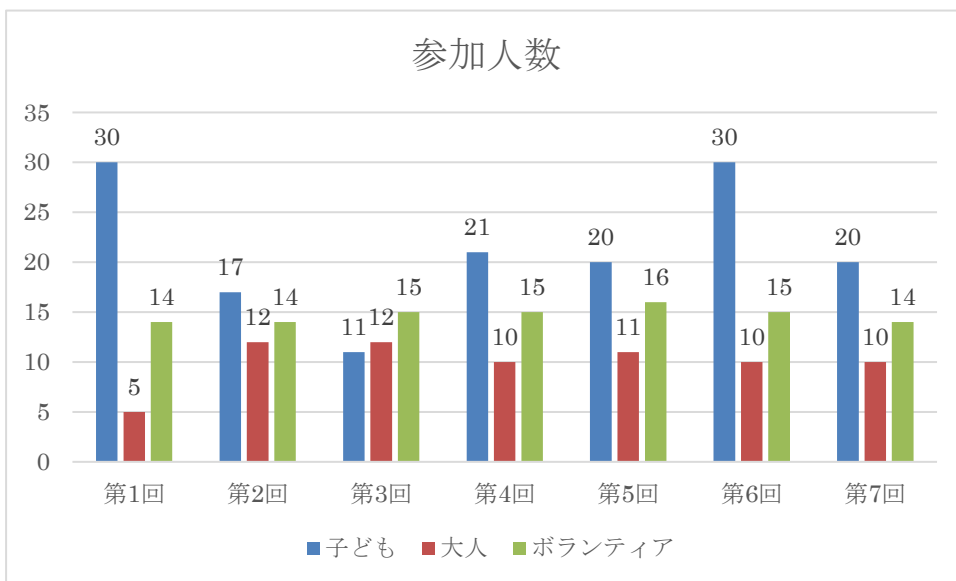
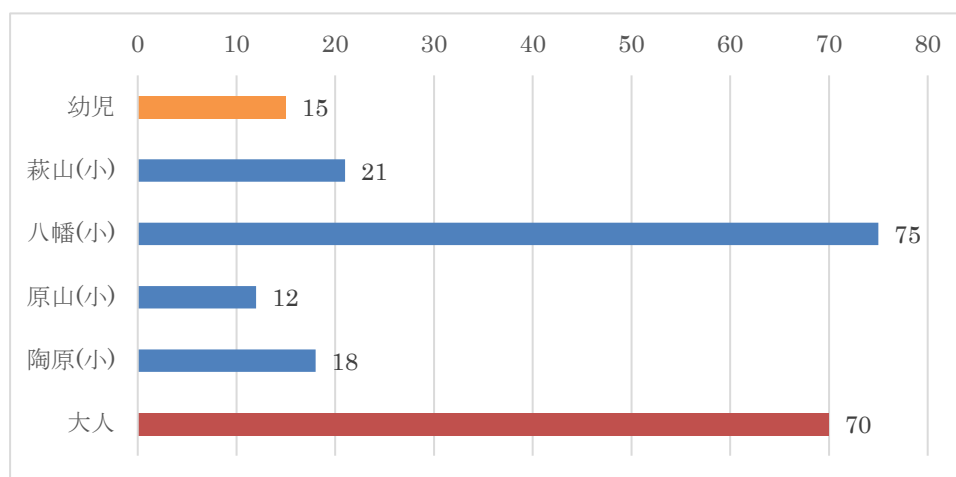


図 1 参加人数

(4) 参加者の主な居住地、学区

主な参加者は幼児から小学生の子どもとその親である。近隣に小学校が4つ存在している。以下は、それを集計したグラフである。

※2017年度利用者記録 提供：せと・まんぷく子ども食堂（(小)は小学生の略）



グラフから子どもは八幡小学校から来ているのが多い。これは八幡小学校が、せと・まんぷく子ども食堂に近隣の小学校の中で一番近いからであると考えられる。また、大人の参加者も多く、子どもの親がほとんどである。

(5) せと・まんぷく子ども食堂を地域に根付かせるための課題

せと・まんぷく子ども食堂が抱える課題は、「居場所づくり」である。子ども食堂に求められることはいくつかある。安価な食事の提供、大人数での食事、学術支援などがあげられるが、せと・まんぷく子ども食堂が特に子どもに供給しようとしているのが「居場所」である。親が仕事で帰りが遅い、学校から帰っても家で一人など様々な理由で子どもが一人で過ごす時間が長くなっているのが現状である。せと・まんぷく子ども食堂は子どもの第2の家になるような居場所にしたいと考え、活動を続けている。自分も子ども食堂に最も必要な要素は「子どもの居場所になり得ているか」と考える。これまで、せと・まんぷく子ども食堂は食事を食べたら、次のお客さんのために帰らなければならなかった。また、開店前や順番待ちをしている子どもは手持ち無沙汰であった。それでは、本当に子どもの居場所になり得ているのかと代表の眞野さんが仰っていたことから、開店1時間前から「子どもと遊ぼう」という活動が始まった。

(6) その課題を解決するために行っている取り組み

せと・まんぷく子ども食堂は近隣の小学校、中学校、コミュニティセンターなどにチラシを配布している。(画像1) また、回覧板でチラシを閲覧してもらったり、Facebookで

さらに広報活動を活発にしている。子どもの居場所をつくるために、そして何より地域に根付かせるために、まずは、知ってもらうことを目的としてこのような取り組みをしている。特にチラシの効果は大きく、参加者の多くは「チラシを見て、ここを知った。」と言っている。また、参加者を募るだけでなく、チラシを見て支援者、後援者も増えている。食材の提供や、子どもに渡すお菓子など温かい支援を多く受けている。せと・まんぷく子ども食堂に限らず、子ども食堂は支援者、後援者の方々無しでは活動していけないと感じる。



画像 1

(7) 子ども食堂を支える関係者マップ

